

平成 29 年 11 月 24 日

(公財)日本セーリング連盟 国際委員会  
戸張 房子 委員長 様

国際委員会 委員  
WS IJ Sub-Committee member  
増田 開

2017 年ワールドセーリング年次会議  
Int'l Judges Sub-Committee (IJSC) 会議報告

平成 29 年 11 月にメキシコ・プエルトヴァラルタにて開催された見出し会議に出席いたしましたので報告いたします。

1. 会議の日時

IJSC 会議 : 11/5 (日) 9:00 - 13:30

予定された時間内に全ての議論を終えることができず、同日 11/5 午後、及び、翌 11/6 の午前にも会議が行われた (このため、公開予定であった議事のいくつかは結果的に非公開となった)

2. 会議出席者

会議には IJSC 委員 (1 名欠席) に加えて WS Race Officials Manager (書記も兼ねる) が出席したほか、公開議事の間は 10 数名程度のオブザーバが傍聴した。オブザーバが意見を述べる場面もあった。

IJSC Chairman	Andres Manuel Perez Alvarez (ESP)
IJSC Vice-Chairman	A. Lynne Beal (CAN)
IJSC Member	Lance Burger (RSA)
IJSC Member	Giorgio Davanzo (ITA)
IJSC Member	Gonzalo Heredia (ARG)
IJSC Member	Kai Masuda (JPN)
IJSC Member	Andrus Poksi (EST)
IJSC Member	Rut Subniran (THA)
( IJSC Member	Iskra Yovkova (BUL) 欠席 )
Race Officials Manager	Madeleine Dunn

3. 議事

(1) Opening of the Meeting

出席委員の自己紹介。

(2) Minutes of the previous meeting and Agenda

前回会議の議事録の確認。

(3) IJ Grouping ※

IJ Grouping の更新は今後 2 年ごとに行われる予定であることが、上部委員会である Race Officials Committee (ROC) から報告された。

※ “IJ Grouping” – ROC が、WS 主催大会での Jury Chairman 等を務める能力のある IJ を “Chief Judge”, “Lead Judge” として認定する制度。2017 年に初めて実施された。

(4) IJ Renewal Test (IJ 資格更新試験)

担当委員から、オンライン受験システムの運用や窓口業務の状況、合格率などが報告された。

(5) IJ Report System※

担当委員から、システムの運用状況や、投稿された大会報告の分析結果などが報告されるとともに、システムの改善に関する提案がなされた。

※ “IJ Report System” – 大会 Jury が、大会情報とジャッジ相互評価を WS に報告するオンラインシステム

(6) IJ Manual

担当委員から、IJ マニュアル 2017 年更新版の見直しが全て完了し、まもなく発行される予定であることが報告された。

(7) IJ Retention

委員長から、過去 4 年間の IJ 資格者数の推移などが報告された。

(8) Rule 42 Working Party

ROC の Rule 42 Working Party(WP)からの活動報告。

(9) Education and Development

担当委員から、IJ セミナー/クリニック の開催実績と予定が報告された。

(10) Use of Technology

テレビ会議システム (Skype) やドローン、小型カメラなどの新しい技術の大会 Jury への導入について、導入例やその有効性などが議論された。

(11) Medal Racing

メダルレースについて、機材を含む準備等に関する大会主催団体向けのガイドラインの提供などについて議論された。

(12) Case 78

WS ケースブックのケース 78 の改訂 (Submission、今 WS 年次会議で審議予定) について議論がなされ、IJSC として意見が集約された。

(13) Insurance for Race Officials

大会に参加するレース・オフィシャルズへの責任保険の必要性について議論された。

(14) Requirements to become IJ

IJ 認定要件について議論された。認定要件の見直しの必要性が提案され、2018 年の認定要件改定を視野に入れ、2017 年末までに電子メール等で議論することとなった。

(15) Request for Redress

RRS に規定されている救済要求の要件の見直し案が説明され、議論がなされた。

具体的には、レース委員会等の不手際/不適切な処置を理由とした救済を不可とすることが提案され、その背景として他のいくつかのスポーツにおいて運営側の不手際を理由に選手を救済する仕組みがないことなども紹介された。セーリングスポーツにおいて成績確定の迅速化のために効果的だとの肯定的な意見があった一方で、近年他のスポーツでチャレンジ (コーチ/選手による判定への不服申し立ての仕組み) の導入が進んでいるトレンドに逆行するのではないかと否定的な意見もあった。

(16) Event Appointments

Event Appointments Working Party からの WS 主催大会等 Jury の任命等についての報告。

(17) Race Officials expenses and payments

大会に参加するレース・オフィシャルズの旅費等の精算、および、役務費ないし給与の支給 (分かり易くは「プロ化」) について議論がなされた。

旅費等の精算については、WS として大会主催団体へのガイドラインを文書として公開すべきとの意見があった。より具体的には、大会に参加するジャッジが旅費を立て替えて、大会会場で当日または大会後に精算されることがあり、多くの大会に参加する (多くの大会の旅費を立て替える) ジャッジには相当の負担となる場合があり、WS として事後精算ではなく事前概算払いを推奨すべきとの意見。

役務費の支給については、(主に WS 主催大会において) 選手・コーチが「プロ化」していることに鑑み、レース・オフィシャルズにも役務費を支払うべきではないかとの趣旨での議論がなされた。

(18) Strategy and Development

今後のジャッジ育成についての方針や育成プログラムのあり方などについて議論がなされた。

(19) Race Officials Committee

親委員会である ROC への申し送り/申し入れ事項の確認。

(20) Submissions

今 WS 年次会議で審議予定の全ての Submission について議論され IJSC の意見集約がなされた。

(21) Closed Session (非公開議事)

IJ 資格者の評価、新規/更新の IJ 資格認定など

以上